

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心・活きた知性・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成28年6月27日

ボランティア精神…教えられるもの？

東陽中学校長 小野寺憲治

文部科学省は、平成13年に中央教育審議会・生涯学習部会に次の答申をしました。それは、「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の自由討議という形で、「高校や大学のボランティアを義務化」に向けた意見交換が行われ、その内容が明らかになりました。ボランティアそのものは、自発的なものであり、単に義務化することやカリキュラムに組みこむなど強制的に行わせることに対する反対意見が根強くあるようで、そのために多くの方々の考えを聞いたものです。いずれにしろ、この結果は次期新学習指導要領改訂等に何らかの形で反映されるかも知れません。

5年前の東日本大震災による津波被害や原発事故、また、今年4月の熊本県を中心に起きた震度7の大きな地震が2度に及んだ熊本地震は想定外のことであり、多くの犠牲者と家屋の倒壊・損壊等の被害がありました。改めて自然の猛威とも言うべき災害の深刻さを知らされることとなりました。その熊本地震から約2か月以上が経過した今でも仮設住宅の建築の遅れや罹災証明が発行されないために解体や片付けができずに車での生活を余儀なくされている方々も多くいるようです。その片付けは、自治体で賄うことが出来ず多くのボランティアを必要とし、また、募集も継続しているようですが月日の経過と共に日に日にその数が減り、片付けが進まないとの報道もありました。また、つい先日も震度5弱の地震があり止まることのない天災にやきもきしている住民の方々のいらだちが想像できます。

今月上旬、学校前のゴミステーション付近に、恐らくカラスが散らかしたであろうゴミが散乱していました。それを見かねた1年生数名が自分の持参しているポリ袋を使って綺麗に片付けてくれました。始まりは数名であったその輪が自然と膨らみ集団となりました。中には異臭を放つ生ゴミもありましたが素手で片付けたのです。実は、この1回だけではなく4月にも同じ事を行っていました。誰が見ても素晴らしい行いです。

前述のボランティアの義務化の意見交換が活発に行われている昨今ですが、自分たちの周辺で起きていることに目を向け、ちょっとした地域の汚れを自分たちの手で綺麗にしようとする行いこそボランティア精神に通じるものだと思います。何とも嬉しい思いにしてくれました。まさにその精神は、他から教えられるものではなく気づくもの…。こうした何気ない行いからボランティア精神が宿るものだと思います。多分、家庭や地域にもそうした精神が根付いているからだと確信しています。

また、5月28日には、PTA生活委員会主催による花壇整備が行われましたが、保護者、教員合わせて約30名の他に、部活動を単位とした生徒100名程度が参加し、花の定植を行いました。校舎周辺には、彩り豊かな花が咲きほころび目を向ける皆の心を和ませてくれています。

このような素晴らしい行いの出来る生徒が本校にはたくさんいることを心から誇らしく感じます。



＜ゴミを拾ってきた1年2、3組の生徒たち＞



＜色とりどりの花が咲いている花壇＞